

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 令和元年度 第7回
開催日時	令和2年2月25日（火曜日） 午後6時00分から7時10分まで
開催場所	田無庁舎 5階 502会議室
出席者	出席：小澤委員長、安田副委員長、井上委員、荻草委員、喜多野委員、小林委員、小松委員、佐々木委員、篠宮委員、堀内委員、山田（尚）委員 欠席：石崎副委員長、田村委員、中村委員、山田（裕）委員 事務局：白井課長、福田係長、藤野主査
議題	(1) 第6回男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について (2) 西東京市第4次男女平等参画推進計画の評価方法について (3) 市長への答申について (4) その他
会議資料の名称	【配布資料】 (1) 第6回男女平等参画推進委員会会議録（案） (2) 西東京市第3次男女平等参画推進計画・西東京市配偶者暴力対策基本計画5カ年総評価報告書 (3) 西東京市第4次男女平等参画推進計画等の評価方法について (4) 第4次男女平等参画推進計画委員会評価 換算表 (5-1) 各課事業別評価報告書レイアウト (5-2) 委員会評価報告書レイアウト (5-3) 重点課題別評価レイアウト (6) 西東京市第4次男女平等参画推進計画体系図 (7) 男女平等参画推進計画委員会による評価の体系
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>【開会】</p> <p>○委員長：これより第7回男女平等参画推進委員会を開催する。 事務局より委員の半数以上が出席しており委員会が成立している旨の報告をした。 続いて事務局より配布資料を確認した。</p>	

(1) 第6回男女平等参画推進委員会会議録(案)の承認について

異議なく承認された。

(2) 西東京市第4次男女平等参画推進計画の評価方法について

(資料3～4について、事務局から順に説明。)

○事務局：先週、開催通知と一緒に資料3の見え消し版をお送りしたが、今日お配りしたのは修正後のものである。事務局が若干修正した箇所もあるので、修正箇所を改めて説明する。

(3) 評価上の着眼点の⑥「前年度の取り組みに課題があった場合」、の後「その指摘を踏まえ」となっていたところを、わかりにくいので事務局の方で「委員会の評価を踏まえ」に改めた。

⑦は前回副委員長のご意見で、女子差別撤廃条約を加えた。

(5) の担当課評価基準のD評価は「未実施のもの」だけとした。これは委員会評価基準の執行状況評価のD評価を「未執行のもの」としたのに合わせたことと、事務局で事前にチェックするので空欄のまま委員会に出てくることはないためである。

(7) 委員会評価基準について、1「計画内容評価」のB評価を「施策の内容に概ね合致している事業」とした。2「執行状況評価」の評価基準の修正に合わせての修正であるが、施策の内容に合致しているのにBでは評価が厳しいのではという意見を受けての修正でもある。「概ね」がどの程度かというのが難しいが、共通認識が持てるよう、来年度の評価に入る前に、事務局のほうで例示できればと思っている。

2の執行状況評価は、やはり執行計画どおりがB評価では厳しいので、それをAとし、Bを「概ね」執行計画どおり、とした。Cの「若干」というのも曖昧なので削除し、未執行をD評価とした。

「課題把握評価」については、「次年度の課題」についての評価であることは明白であることから、基準欄の「次年度事業の」という記載を削除した。また、C評価の「見通しがやや不足している」とD評価の「見通しが立っていない」は、A評価とB評価とも合わせて、「把握」という表現に統一した。

4 報告書様式は事務局で追加した。第3次計画では委員会と各課評価の様式は同じだったが、今回別々の様式になったので、それがわかるように記載した。前回は配布したが、資料5-1から5-3になる。

(資料4について説明)

委員会の各課評価を点数に換算する方法を別紙としてまとめたものだが、こちらは1点修正がある。今回の評価方法では各課の評価を「計画内容」「執行状況」「課題把握」の3つに分け、それらを点数化することで各課の全体評価、また施策全体評価を自動的に、各評価と全体評価が矛盾なく算出できるようにした。そうした中で疑問として「計画内容」と「課題把握」がA評価であれば「執行状況」が未執行でもB評価になってしまうのがそれでよいのか、とういうご意見があった。それに対して未執行の場合は「計画内容」と「課題把握」の評価に関わらずD評価としている例があったというようなご説明をし、そうしたいとお話したが、事務局の

勘違いで、それはプロポーザルの採点で使われる方法だった。そこで改めて検討した結果、やむを得ない事情で執行できなかったという場合もあると思うので、未執行の場合は C 評価以下、とすることを提案したい。

なお、来年度の評価の時期だが、7月末の委員の改選をまたいでの評価作業は難しいので、4年前と同じく改選後の8月に第1回委員会を開催し、そこから作業をスタートさせたいと思っている。10月下旬には各課評価だけは概ね終わらせ、中間報告のような形になるが、各課に報告できればと思っている。各課からは例年どおり前年度の評価と来年度の計画を年度初めに提出してもらい、8月までの間に事務局で精査して、施策や事業の内容と合致していないものなどあれば各課と調整したい。

評価方法（案）について承認をいただきたいが、ご意見等があれば上げていただきたい。

- 委員長：前回の委員会での議論を受けて事務局の方で修正した、と認識しているが、前回の議論が反映されているか、ということも含めて意見等あれば上げていただきたい。
- 委員：前回の委員会で、資料3の(7)委員会評価基準の1「計画内容評価」のC評価について、他の評価基準のC評価に比べて下から2番目の評価にしてはあまり悪くないような表現なので、変更してはどうかと意見を述べたが、それについてはどうか。
- 事務局：実態として施策にぴったり合致していないが間接的につながりがある事業を取り上げている場合はよくあるが、それらを全てC評価としているわけではなく、B評価という場合もある。おっしゃる通りC評価であれば関連しているが関連が乏しいとか、もう少し低評価らしい基準にしたほうがよいかもしれない。
- 委員：C評価という低評価に値するような、例えば「一部しか関連していない」などのマイナスの表現にしたほうがよい。
- 委員長：表現の問題である。他によい表現があれば挙げていただきたい。
- 委員：関連性が薄いとかな。
- 委員：一部しか合致していないとか。後で事務局で上げていただいてもいいと思う。
- 委員：Cを「関連が乏しい」、Dを「関連が著しく乏しい」など、関連性のレベルに差をつける表現にしてはどうか。
- 委員長：事務局はしっくりくる表現があるか。
- 事務局：D評価はほとんどあり得ないレベルなので、Cを「関連が乏しい」、Dを「見直しが必要」などとしてもよいのではないかと思う。
- 委員長：それでいいのではないか。(他の委員も同意)
- 事務局：欠席されている委員もいるので、修正版を後日お送りし、ご了解をいただくこととさせていただきます。
- 委員長：他に意見はあるか。
(意見なし)
- 委員長：第4次計画の評価方法については概ね決定としたい。

(3) 市長への答申について

○委員長：事務局に説明を求める。

○事務局：資料2～7に鑑文を添付し答申書とする。資料6は各課事業までを掲載した計画の体系図、資料7は委員会が行う評価の体系図となっている。施策ごとに課単位で評価をしていただきます。評価項目は147あるが、No.56から82までの審議会・委員会等の女性比率についての評価はまとめて評価することとしたい。各課にはこれまでどおり評価をしてもらうので、委員会評価ではコメントの中で特に取り組みに課題があると思われるものや、改善が図られているものなどを取り上げていただければよいと思う。各課の取り組みを確認していただくことにはなるが、評価項目は26減るので121となる。ちなみに他の自治体では同様に全体で評価するやり方と、取りまとめる課に対して評価するやり方のいずれかのようなものである。

答申の日時は確定ではないが、3月30日の午前中となる見込みである。例年5～6人の方にご出席いただいている。今年もご都合のつく方のご出席をお願いしたい。

○委員長：現時点で出席可能な方はいますか。

(4人の委員が挙手)

○委員長：答申の際は詳しく説明をする必要はあるか。

○事務局：事前に事務局から説明を行うので、当日長々とご説明いただく必要はありません。

答申の日時等のご案内は、改めて連絡させていただく。

(4) その他

○事務局：改選について。現任期は7月30日までである。可能な方にはできるだけ引き続きお願いしたいと思っている。市民委員の方は公募させていただくので、引き続き希望される方も再度応募していただく必要があります。

改選前の6月～7月に委員会を開催したいと考えている。議題については委員長、副委員長と相談させていただき、日時と合わせて後日皆様にご連絡させていただきたい。

なお、次期委員会は8月に委嘱式と第1回を開催して新しい評価方法での評価についてもそこからスタートし、9月・10月と続けて開催したいと考えている。

○委員：委員の応募回数の制限はあるか。

○事務局：当委員会については制限はない。

○委員：学識経験者は非常勤でも対象になるのか。

○事務局：肩書ではなく、専門知識を有しているかどうかが判断基準になると思われる。

○委員長：本日はこれにて散会する。お疲れさまでした。

【閉会】